

質 疑 (代表質問)

発言者 大 山 高 子

| 発 言 の 要 旨 (その1) |
|---|
| 1 適正な補助金交付について |
| (1) 平成29年度の委員会の提言を、どのように制度や運用に反映し、補助金の見直しを行ってきたのか。 |
| (2) 委員会の提言や今回の監査結果を踏まえ、今後の適正な補助金交付にどのように取り組むのか。 |
| 2 ユニバーサルデザインのまちづくりについて |
| (1) チータカ広場リニューアルに当たり、ユニバーサルデザイン基本指針をどのように反映したのか。 |
| (2) 追加整備でインクルーシブ遊具を設置する可能性 |
| (3) 今後のまちづくりにおいて、ユニバーサルデザインの考え方をどのように生かしていくのか。 |
| (4) 伝わる市役所 |
| ① 市民課でのAIオペレーター実証事業の実施状況と、職員の業務負担軽減の効果 |
| ② 市民の満足度や利便性に関する検証を、どのような観点で実施するのか。 |
| ③ 全庁導入に向けた課題や今後の展開 |
| ④ やさしい日本語対応を市民課等でモデル的に導入し、やさしい日本語で対応しますと掲示を行うなど、市民に見える形での取組を始める考え |
| 3 障害者雇用について |
| (1) 法定雇用率3.0%について、令和8年時点での具体的な達成見通しと工程管理 |
| (2) 市長部局における未達成の要因を、どのように分析し、どの部局でどのように職域拡大を図るのか。 |
| (3) 江戸川区の業務創出型モデルを研究し、本市に生かしていく考え |
| (4) 法定雇用率を着実に達成し、活躍モデル自治体を目指す考え |

発言の要旨(その2)

4 介護現場の課題について

- (1) 本市として、介護人材不足の危機をどのように認識しているのか。
- (2) 厚生労働省の関連事業を活用し、モデル的にスケッターの仕組みの導入検討を進める考え
- (3) ケアマネジャーの新規人材確保策として、将来の担い手を育てる施策

5 がん対策について

- (1) 膵臓がんの現状についての認識
- (2) 地元医師会と中核病院が連携し、膵臓がんの早期診断に取り組む必要性についての考え

6 脱炭素先行地域の選定について

事業の着実な実施に向けて、推進体制を構築する考え

7 中学校部活動の地域展開について

- (1) 実証事業で見えてきた成果と課題の総括
- (2) 保護者のさらなる理解促進のための方策
- (3) 小規模校に対する対応
- (4) 経済的に困窮する世帯の生徒への支援
- (5) 意見交換の場の設置など、企業が参画しやすい体制づくり
- (6) 部活動の地域展開における、放課後FACTORYとの連携
- (7) 市民活動センターへの働きかけ
- (8) 持続可能で誰一人取り残さない部活動地域展開に向けた、市長の決意
- (9) 持続可能で誰一人取り残さない部活動地域展開に向けた、教育長の決意